

2023 年度 専門学科・総合学科出身者入試【農学部】

受験番号								氏名	
				-					

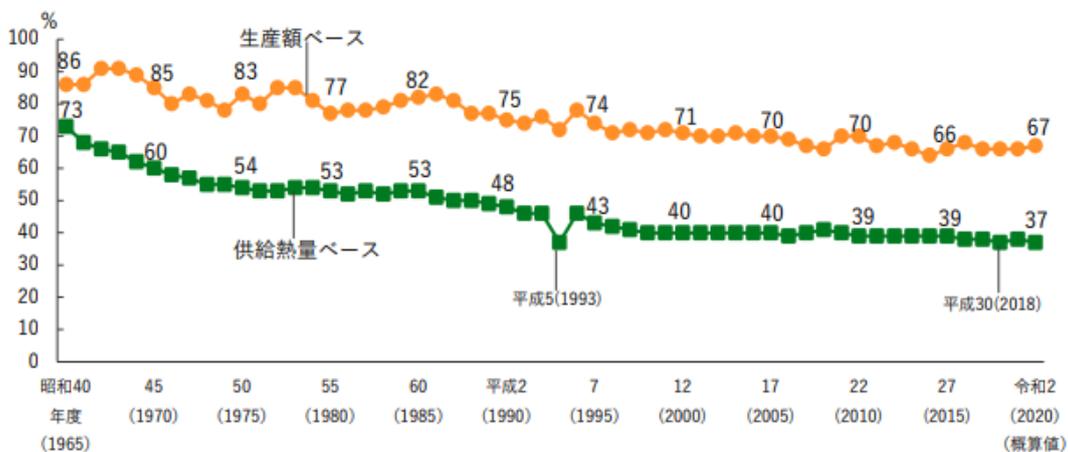
次の文章を読み、食料自給率の低下が案じられているわが国の食料供給の変化について、その利点と問題点の双方を 600 字以内で述べなさい。

農林水産省は毎年、食料自給率を公表している。それは複数の指標からなる。そのひとつは供給熱量ベースの自給率で 2020 年度（概算値）は 37%、もうひとつが生産額ベースの自給率で同じく 67%である（下図を参照）。いずれも長期低下傾向をたどっていることから、将来の食料確保に不安を感じる国民が多い。政府は 2030 年度に向けてそれぞれを 45%と 75%に引き上げる目標を掲げている。

供給熱量ベースの自給率の低下が生産額ベースよりも大きいのは穀物やイモ類、豆類の生産が顕著に減少したからで、これらに代わり販売価格が高い野菜等の生産に力を入れるようになった。畜産も国内農業のなかで重みを増しているが、家畜飼料の大部分を輸入に依存しており、これが食料自給率低下の一因になっている。飼料生産を外国にまかせ、家畜の飼養だけを行う畜産のあり方は加工型畜産と呼ばれ、健全な畜産の姿ではないと批判を浴びることが多い。

このようにわが国の食料生産は特定の品目や部門に集中する傾向を示す。背後には食料生産の国際分業の進展があり、わが国の食料生産のあり方もその一環をなしている。

国際分業で注目されるのは主に産業間の分業で、わが国の食料自給率低下も工業化と裏腹の関係にある。さらに食料生産についても国際分業が進んでいるのだが、それは国際分業の進展がさまざまな恩恵をもたらすからである。この点を重視すると、食料自給率の低下を一概に否定的現象と断じるのは難しくなる。



資料：農林水産省「食料需給表」

注：平成30(2018)年度以降の食料自給率は、イン(アウト)バウンドによる食料消費増減分を補正した数値

出典：「令和3年度 食料・農業・農村の動向」図表 1-1-1 を引用。